

土砂防 だより



一瞬の晴れ間に（御殿庭）

静岡県支部通常総会	2
土砂災害防止月間活動	3
●急傾斜地パトロールの協働実施	
●「砂防フェスティバルしずおか」開催	
●「土砂災害に関する絵画・ポスター・作文」 優秀作品の紹介	
平成15年度 砂防関係事業の代表的な完成箇所 第1弾	6
土砂災害防止法	8
●静岡市で指定第1号（全国で2県目）	
●シリーズ ミニ講座①「土砂災害警戒区域とは」	
インフォメーション	9
新企画 石碑を訪ねて	11
募集・お知らせ	12

特集 第59回全国治水砂防協会 静岡県支部総会

H16 土砂災害防止月間活動



全国治水砂防協会静岡県支部

本県の砂防事業の重要性を訴える

静岡県支部通常総会を開催

5月27日に、全国治水砂防協会静岡県支部の平成16年度(第59回)通常総会を、静岡市内で開催しました。

総会では、支部長の石川嘉延県知事が議事に先立ち、「当県は全国でも土砂災害危険箇所が多く、より一層の努力が求められる」と砂防事業の重要性を訴え、5月28日に土砂災害防止法に基づき、静岡市内の大和田沢他を県内初の警戒区域に指定する(全国では2県目)と説明がありました。続いて、亀江国土交通省砂防計画課長、八木県議会副議長、岡本全国治水砂防協会技術顧問よりご祝辞をいただきました。

この後、議案の審議が行われ、平成15年度事業報告・収支決算報告、平成16年度事業計画・収支予算等が承認されました。次に、市町村合併に伴う平成17年度以降の会費の改正についての説明がありました。

総会終了後、亀江砂防計画課長から「砂防行政の最近の動向について」の講演をいただきました。



支部長挨拶



亀江砂防計画課長による講演

【平成16年度事業計画の概要】

- 1 砂防事業の周知・啓発・普及
 - ①国・県の実施する事業への協力
 - ②会員による先進地視察研修の実施
 - 新潟県の砂防事業現地視察
 - ③砂防関係担当職員に対する研修会の開催
 - 市町村等砂防担当職員研修会の開催
 - 土砂災害防止法講演会の開催
 - ④他機関の実施する講習会等への参加
- 2 砂防事業等促進要望の実施
- 3 「砂防だより」や砂防関係図書の発行
- 4 全国治水砂防協会等への協力

全国治水砂防協会通常総会開催される

5月12日に、(社)全国治水砂防協会の平成16年度(第68回)通常総会が、砂防会館で開催されました。

当日は、会員多数出席のもと、斉藤斗志二衆議院議員をはじめ多くの国会議員が来賓として出席されました。当支部からは副支部長の原田袋井市長をはじめ30名の会員にご出席をいただきました。

総会は、綿貫会長による主催者挨拶、大石国土交通省技監による祝辞に続き、平成15年度の事業報告・収支決算報告、平成16年度事業計画・収支予算等が承認されました。

続いて、感謝状贈呈・会長表彰の発表では前静岡県支部長の斉藤滋与史氏に、長年にわたり砂防事業の推進にご尽力をいただいた功績をたたえ感謝状を贈呈することが報告されました。

また、国庫補助負担金制度についての緊急決議が採択され、大会終了後、県選出国會議員に要望活動を行いました。

お忙しい中、ご協力をいただきました会員の皆様には心からお礼申し上げます。



綿貫会長の挨拶



感謝状写真
5月20日に、斉藤前支部長に贈呈された感謝状
長い間ほんとうにご苦労様でした。

参加市町村

東伊豆町、河津町、賀茂村、伊東市、御殿場市、伊豆市、大仁町、小山町、富士宮市、静岡市、由比町、島田市、金谷町、川根町、中川根町、本川根町、御前崎市、相良町、榛原町、吉田町、掛川市、袋井市、森町、浅羽町、竜洋町、天竜市、春野町、佐久間町、水窪町、引佐町
太字は会員本人の参加市町村

平成16年度 土砂災害防止月間活動

6月1～30日

毎年、各地で発生する土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害により、多くの人命・財産が失われています。そこで、国土交通省と静岡県では、梅雨時で雨量が多く地盤がゆるみ土砂災害が発生しやすい6月を「土砂災害防止月間」として、土砂災害に関する防災知識の普及と警戒避難体制の整備を促進するため、様々な行事を実施しました。

1

住民と砂防ボランティアの参加 急傾斜地パトロールの協働実施

急傾斜地崩壊区域として指定された区域は県下に1,004箇所あります。県では、6月1日から16日までの間に土木事務所、行政センター、市町村、消防署および地域住民や砂防ボランティアと協働で延べ887人を動員して、崩壊防止施設の異常、斜面崩壊・亀裂の有無、排水路の機能状況など防災点検を実施しました。

急傾斜地パトロールにより施設の破損や小規模の崩壊が確認された箇所については、今後早急に改善措置をとって参ります。



パトロールの様子

住民の方の相談に乗る榎田副会長



急傾斜地パトロールに参加して

全国治水砂防協会静岡県支部 宮城島朋代

6月4日に、菊川町の急傾斜地パトロールに静岡県砂防室、袋井土木事務所、菊川町、消防の担当者及び砂防ボランティアの榎田副会長と参加しました。

現地では、住民の方から「以前は雨が降ると不安で、親戚が心配して電話してきたりしたが、今は安心して眠れるようになった」と声を掛けていただきました。また、現在の裏山の状況や、水抜孔から出る水の量に対する不安等に、榎田副会長はじめ職員の方々の説明を受け、住民の方は安心していただようでした。対策工事の必要性とともに、急傾斜地パトロールなどで、現地の方々と意見交換する必要性も感じました。

お世話になりました皆様、ありがとうございました。

2

「砂防フェスティバルしずおか」開催

6月20日(日)に、土砂災害の恐ろしさや砂防関係事業を県民の皆さんに知っていただくため、静岡市青葉公園で砂防フェスティバルを開催しました。

このイベントは、国土交通省静岡河川事務所、沼津河川国道事務所、富士砂防事務所、静岡県、静岡市が主催し、土砂災害防止に関するパネルや模型の展示、砂防について学習するクイズラリーのほか、SBSラジオの公開生放送も行われました。



実験装置を興味深く見学する皆さん

当日は、台風6号の接近と梅雨前線の関係で時折強い雨がりましたが、約1,000名にのぼる来場者がありました。

今年は、土砂災害体感3Dシアターも登場し、多くの皆さんが体験していました。県からは、透過型えん堤の模型を使った土石流捕捉実験の実演をはじめ、各種パネルの展示、啓発グッズの配布などを行いました。クイズラリーと併せて行ったアンケートでも、「日頃忘れがちな災害、改めて考えてみる機会に出会えた」、「対策の必要性を感じた」等、土砂災害防止に関心を持っていただきました。



砂防フェスティバルの様子

【平成16年度】
土砂災害防止
啓発用品等の
紹介コーナー



懸垂幕（河津町役場）



マグネットシート（急傾斜地パトロール中）



クリップライト



マスコット（砂防フェスティバルにて）

3

住民の参加

土砂災害避難訓練の実施（静岡市口坂本地区）

6月16日(水)に、静岡市口坂本地区において、土石流を想定した土砂災害避難訓練が実施されました。午後1時30分に土石流センサーが切断され、連動したサイレン及び監視小屋の赤色灯が作動し、同時に同報無線子局及び戸別受信機により住民に情報が伝えられました。直ちに住民の避難が開始され、30分後の午後2時には全員の避難が確認されました。避難場所では、防災資機材及び地域防災無線の取り扱い訓練が行なわれました。

同日、「静岡市オフロードバイク隊」による情報収集訓練も行なわれました。



訓練の様子

4

「土砂災害に関する絵画・ポスター・作文」優秀作品の募集

静岡県と国土交通省では、土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めていただくために作品を募集しています。

募集対象 / 絵画・ポスター・作文：小中学校生

- 課題 / ● 絵画 身近で発生した土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害の体験やようす、砂防えん堤・がけ崩れ防止施設などの土砂災害防止施設など。サイズ、書き方は自由。
- ポスター 土砂災害の恐ろしさが伝わるもの。または砂防えん堤・がけ崩れ防止施設などが土砂災害防止に役立っていることが理解できるもの。サイズ、書き方は自由。
 - 作文 土砂災害に関する体験、土砂災害対策と環境との調和などへの意見、または土砂災害防止施設の見学の感想など。400字詰め原稿用紙5枚以内
(ただし、小学校低学年は2枚程度、小学校高学年は4枚程度)

応募期間・応募方法 /

- 6月1日～9月15日
- 作品には応募者の学校名、学年、氏名を明記して下さい。学校名、氏名にはふりがなを明記してください

応募先・お問い合わせ /

〒420-8601 静岡市追手町9-6 TEL 054-221-3042 FAX 054-221-3564
E-mail sabo@pref.shizuoka.lg.jp
静岡県土木部砂防室 土砂災害対策スタッフ

平成15年度

「土砂災害に関する絵画・ポスター・作文」優秀作品の紹介

3月29日に、平成15年度土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文の表彰式を県庁で行いました。今回は、その受賞作品をご紹介します。

(学校・学年は応募当時のものです)

表彰式の様子および応募状況等は、前号(No.145)に掲載しています。

絵画の部

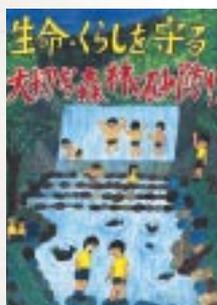


国土交通省砂防部長賞
浜松市神久呂中学校3年
島村美緒さん



静岡県土木部長賞
佐久間町立浦川小学校5年
芦澤尚史さん

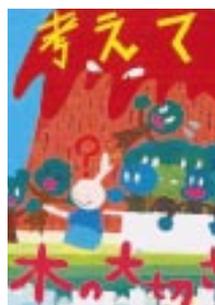
ポスターの部



国土交通省砂防部長賞
藤枝市立西益津小学校6年
伊藤良さん



静岡県知事賞
富士宮市立大富士中学校3年
秋山史織さん



砂防協会静岡県支部長賞
沼津市立第二中学校3年
増村歩美さん



砂防協会静岡県支部長賞
富士宮市立大宮小学校4年
中村徳亜さん



国土交通大臣賞 「父の仕事から」

富士市立岩松中学校一年 鈴木栄弥さん

「今日の富士山は、雲がかかっていなくてきれいだね。」
日本一の山 富士山。そのふもと富士市に、私は住んでいます。富士市から見る富士山と富士宮市の朝霧から見る富士山には違うところがあります。朝霧からは、大沢川の上流にある大沢崩れが見える点です。古い山ですから、毎年崩れているのです。もっと崩れて、土石が流れ、私たちに被害をもたらしたり、富士山の美しさが失われてしまったらと考えると、いてもたってもいられません。

日本の国土の七十パーセントが山です。山の多くは、川の水や雨、風などに削られやすい土質でできているので、梅雨や台風などで大雨が降ると、弱い土が水を含み崩れます。夏休みに入るとすぐ、九州中南部に大雨が降り、土石流やがけ崩れが起きました。その時の新聞を見て最初に目が入ったのは、「豪雨二人死亡二十人不明」でした。大雨で土石流が起き、被害にあったのがもし私だったら、家ごと土石に飲み込まれたらと思うと、とても怖くなりました。そして、土石流が起きると、死者を出すほどの被害をもたらすこともあるのだと、改めて実感しました。

「ゴーゴー、ドドド、ドーン」

テレビでも、勢いよく土石が流れ、道路をふさいでしまったり、家の屋根や壁が流されてしまっている様子を見ます。「大雨が降っています。土砂崩れに気を付けてください。」

このような注意もよく聞きます。私たちの身近で、富士山の大沢川でも土石流が発生しているので、注意を聞くと、心配になります。大沢崩れは、千年前から崩れ始めたといわれています。二十年間の平均では、毎年二十万立方メートルの土砂が崩れ、それは一日、大型ダンプトラック、百台分に相当するそうです。

私の家は、三代続いている砂利店です。砂や砂利や土などを、採取し選別して売っています。特に砂は自慢です。それは角がなく丸いからです。子供達が、手足で遊ぶ砂場等には最適です。痛くなく、さらさらとしているからです。私の学校の砂場も、この砂を使っています。生コンクリートにも、丸いのでぎっしりとして強度のものでできるので、いいそうです。そうした砂などは、私の店では、山を買って、自分の山から採っています。山を切り崩して採るもの、山に対して量が決まっています、それ以上

は採りません。そして、採った後も木を植えて、緑の山に戻します。私は以前、家業が地球を削っているのではないかと心配したことがありますが、今は違います。ただ、山を崩しているのではなく、土砂災害が起きない様に採り方などを工夫するだけでなく、土砂災害を防ぐ仕事にも従事していることを知ったからです。

我が家は、土木建設の工事もやっていて、その関係で父は、富士山の除石工事の仕事を昨年から引き受けました。ダンプを何十台も使って、毎日砂防ダムによってたまった土砂を運びます。仕事は何より、安全第一です。雪道を走るの、いつもより注意が大変だったそうです。住民に迷惑をかけないように、環境を破壊しないように、気をつけていたそうです。平成十二年十一月に大沢川で土石流が発生しましたが、大沢遊砂地があったので、災害を未然に防ぐことができました。父の仕事は、その次に発生する土石流に備え、除石工事をする床固工除石工事でした。遊砂地や沈砂地でためて止めなければ、土石流は、民家をおそい、川に流れ、大規模な被害を受けるのです。それを防ぐ仕事を父はしているのです。環境や自然を守るのと同様に、工事も必要なのだと思いました。父の仕事は決して地球を削っているのではありません。父は、土砂災害の被害をなくす手伝いをしているのです。

私は、(今までお父さんが、こんな工事をやっているなんて知らなかった。まして、土砂災害から私たちを守るために砂防工事をしている人がいるなんて。)と、初めて知ってびっくりするとともに、今まで私たちを災害から守ってくれていた人たちがいたことに、気づかなかった自分を恥ずかしく思いました。このような工事が行われていなかったら、富士川の方に土砂が流れてきて、その土砂によって、大きな被害をもたらされたでしょう。春先に大雨が降ると、雪もいっしょにとけて、もっと大きな被害をもたらすそうです。

私は、父の仕事を誇りに思うとともに、人々に被害をもたらすだけでなく、自然にも被害を与えている土砂災害の原因と実状を、もっと知らなければと思いました。同時にみんなを守るために日夜土砂災害を防止する仕事をしている人がいることも、忘れてはいけなと思いました。

国土交通省砂防部長賞 「土砂災害について」

富士市立富士第二小学校四年 畑田大翼さん

ぼくは、土砂災害について正直言って考えてみたこともなかった。

車に乗って出かけた時も、もし山がくずれてきたらどうなるのかなあと思う時もあったが、本当にあの土砂がくずれてくるなんて考えるきもなかった。「落石注意」と立てふだがあっても実際、石が落ちてきたことは一度もなかった。ぼくの頭の中では、落ちてこないことがあたり前で、ましてくずれてくるはずもないと思っていた。

ところが、今年は大雨で県内でも土砂がくずれて、大変な被害がでた。ぼくは、ニュースに目を見はった。土砂がくずれ線路や道路をふさいだ。本当に雨で土砂がくずれてきた。とてもこわいことだと思った。

大井川鉄道の土砂くずれは、幸いにも未明だったため、ひ害は大きくならなかったが、これがもし電車が走っている時ならどうなっていたらだろうか。電車もつぶされて乗客も土砂にうまってしまったのだろうか。考えるだけでも背すじがゾッとしてしまうほどとてもこわい話だ。

また伊豆でもキャンプ場に続く林道で土砂くずれがあり、キャンプ場が立じょうたいになった。遊びにきていた人たちは家に帰りたくても帰ることができず、ずっとそこにいなければならなくなってしまった。食べる物は十分にあったのだろうかとか何かこまっていることは、ないだろう

かと心配になった。

そればかりでなく、土砂は電柱もおし長い時間てい電がおきた地いきもあった。電気が使えないから家の中は暗いし、テレビやパソコンは使えないし、れいぞう庫だつて温まってしまうから大変だ。

土砂災害のおそろしさをあらためて感じた。それにくずれてきた土砂を取りのぞく仕事もまた大変なようだ。作業中に、山はだがまたくずれてくると再び土砂くずれがおきしてしまうきけんがある。本当に大変な仕事だと思った。かん全に復旧するまでに時間がかかることもある。たとえば大井川鉄道も一週間たつたいまでもまだかん全な復旧してないと言ふ。

今後は土砂がくずれてこないような防止対さくを考えていく必要があると思う。そうでなければ大雨による土砂災害が、またいつか、どこかでおきてしまうだろう。今回のひ害をよく考え、ひ害を少しでも少なくできるような方法を考えていくことが大切な課題だと思う。そしておそろしい土砂災害が二度とおこらないようにしていかなければならない。

まさか本当に大雨で土砂災害がおきるなんて想ぞうもしていなかったぼくにとって、今年土砂災害について考え直すよいきっかけとなった。

平成15年度

砂防関係事業の代表的な完成箇所

砂防事業



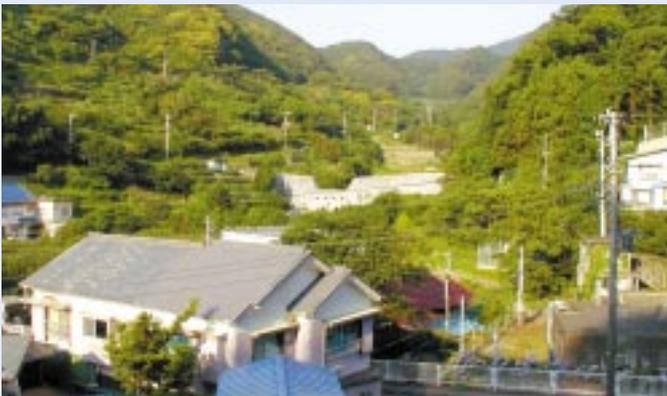
よしづがわ
吉津川砂防えん堤

事業名 / 通常砂防事業
箇所 / 焼津市吉津地先
期間 / 平成11～15年
事業費 / 272百万円
概要 / コンクリート砂防えん堤
H = 13.0m、L = 86.5m
事業効果 / 土石流による災害を防ぐため、砂防えん堤を施工し、人家28戸の安全が図られた。



もつきざわ
目木沢砂防えん堤

事業名 / 通常砂防事業
箇所 / 小笠郡菊川町倉沢地先
期間 / 平成11～15年
事業費 / 303百万円
概要 / 鋼製砂防えん堤
H = 12.0m、L = 52.0m
事業効果 / 土石流による災害を防ぐため、砂防えん堤を施工し、人家6戸及びJR東海道線の安全が図られた。



おおたがわ
太田川砂防えん堤

事業名 / 火山砂防事業
箇所 / 賀茂郡松崎町雲見地先
期間 / 平成10～15年
事業費 / 272百万円
概要 / コンクリート砂防えん堤
H = 10.0m、L = 78.0m
事業効果 / 土石流による災害を防ぐため、砂防えん堤を施工し、人家49戸及び緊急輸送路(国道136号)の安全が図られた。



みとくぶしざわ
三津久伏沢砂防えん堤

事業名 / 災害関連緊急砂防事業
箇所 / 沼津市内浦三津地先
期間 / 平成14～15年
事業費 / 132百万円
概要 / コンクリート砂防えん堤
H = 7.0m、L = 26.5m
事業効果 / 平成14年10月1日の台風21号により土砂が流出、床下浸水4戸の被害が発生。災害発生後も渓流内には大量の不安定土砂が堆積していることから、緊急に砂防えん堤を施工し、人家8戸及び緊急輸送路(主要地方道沼津土肥線)の安全が図られた。

地すべり対策事業



かみおおさわ
上大沢

事業名 / 災害関連緊急地すべり対策事業
地すべり対策事業
箇所 / 藤枝市上大沢地内
期間 / 平成11年（災害関連緊急地すべり対策事業）
平成13～15年（地すべり対策事業）
事業費 / 1,089百万円（災害関連緊急地すべり対策事業）
108百万円（地すべり対策事業）
概要 / 横ボーリング工 L = 6,050m
アンカー工 N = 1,048本
事業効果 / 地すべりによる災害を防ぐため、対策工事を施工し、
人家40戸及び市道花倉上大沢線の安全が図られた。

急傾斜地崩壊対策事業



いわちにした
岩地西の田

事業名 / 急傾斜地崩壊対策事業
箇所 / 賀茂郡松崎町岩地地内
期間 / 平成11年～15年
事業費 / 315百万円
概要 / もたれ擁壁工 L = 39.3m 重力式擁壁工 L = 24.3m
張コンクリート工 L = 80.1m 吹付法枠工 A = 1,573㎡
事業効果 / がけ崩れによる災害を防ぐため、対策工事を施工し、
人家36戸及び公民館の安全を図るとともに、松崎町
との連携により災害時の避難場所、夏季の観光駐車場
を確保する特定利用斜面事業を実施した。



おおいわしばかけ
大岩芝欠No.3

事業名 / 災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業
箇所 / 静岡市大岩地内
期間 / 平成14～15年
事業費 / 58百万円
概要 / もたれ擁壁工 L = 28.9m
重力式擁壁工 L = 36.7m
事業効果 / 平成14年7月10日の台風6号によるがけ崩れにより
災害が発生したため、対策工事を施工し、人家19戸
の安全が図られた。



なかじまちくさ
中島千草

事業名 / 急傾斜地崩壊対策事業
箇所 / 天竜市小川地内
期間 / 平成12～15年
事業費 / 190百万円
概要 / 重力式擁壁工 L = 187.6m
もたれ式擁壁工 L = 9.4m
吹付法枠工 A = 738㎡
事業効果 / がけ崩れによる災害を防ぐため、対策工事を施工
し、人家11戸及び一般県道大輪天竜線の安全が
図られた。

土砂災害から身を守り、安全な地域づくりを目指して

土砂災害防止法の区域指定が始まりました

5月28日、静岡市大和田地区の2渓流(大和田沢、小野下沢)において**土砂災害警戒区域の指定**を行いました。

昨年7月の豪雨(静岡地方気象台:112mm/時間)により、大和田地区では土石流やがけ崩れなどの被害が発生しました。

このため、災害発生箇所に関連緊急砂防等工事(ハード対策)を実施するとともに、土砂災害防止法の区域指定(ソフト対策)のための基礎調査に着手しました。

調査の中で地元の方からお話を聞いたと



平成15年7月の大和田沢の土石流による被害のようす



大和田地区の皆さん(第2回地元説明会H16.2)

ころ、昭和49年の七夕豪雨(84.5mm/時間、508mm/24時間)でも発生しなかった土砂災害が起こるとは、といった驚きの声も聞かれました。

土砂災害防止法の地元説明会は、平成15年12月から実施しました。土砂災害のおそれのある区域が示されることに対して、住民の皆さんも熱心に質問をされるなど話に参加されました。

2つの渓流の基礎調査の結果、当地区では土石流により建物が破壊され住民に大きな被害が生じるおそれがある区域(特別警戒区域)は発生しなかったことから、土石流災害のおそれがある区域(警戒区域)の指定を行いました。

土砂災害を防止するためには、住民の皆さんも雨の様子や前兆現象に注意をいただき、いざという時には早めに避難することが大切です。

県内には土砂災害危険箇所は15,000箇所以上も存在します。県では、順次、土砂災害防止法の区域指定を進め、皆さんに土砂災害のおそれのある区域を明らかにし、市町村の警戒避難体制整備への支援等を進めていきます。



土砂災害警戒区域の指定(H16.5)

【シリーズ】土砂災害防止法・ミニ講座VOL.1

「土砂災害警戒区域」とは...

土石流やがけ崩れ等により住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがある土地を、「土砂災害」警戒区域と言います。右の図のように「黄色」の区域で示されることからイエロー区域と呼ばれることもあります。

黄色ですから、「注意」が必要な区域と覚えるとわかりやすいですね。

この警戒区域では、市町村の地域防災計画において警戒避難体制が定められ、各市町村において警戒避難体制の整備が進められることとなります(防止法第7条)。

警戒避難体制において定められる内容には、以下のようなものがあります。



土石流に対する区域指定の例

土砂災害情報の収集・伝達に関する事項
避難・救助に関する事項

予報・警報の発令及び伝達に関する事項

都市山麓グリーンベルト 子供たちとグリーンベルト作業会の実施

4月11日、18日に、都市山麓グリーンベルト(砂防樹林帯)の整備を進めている静岡市清水大内地区で住民・ボランティアとの協働で竹の伐採、たけのこ掘りを行いました。

これは、「第5回 春の森づくり県民大作戦」(環境森林部)の一環としても開催されたもので、竹林拡大の元を絶つために企画されました。11日は「森と水辺を育てる会」(ボランティア組織)主催で、18日は「高部地区PTAボランティア推進委員会、高部連合町内会共催によるものです。大内自治会、高部小PTAボランティア推進委員会、森林保護ボランティアグループ(S-GIT)に加え、地元の高部小、高部東小、清水第六中の先生、父兄、子供たちも加わり、昨年の参加者を上回る総勢237名の参加をいただきました。

大内公園に各自道具を持ち寄って集合し、S-GITからの作業についての講習のあと、天白沢、杉谷津沢に向かい、土から顔を出し始めたたけのこを掘り、各所で子供たちの歓声があがりました。里山に溶け込む子供たちの笑顔が実にさわやかで、頼もしく、普段は閑散とした山はとても賑わいました。

作業終了後、記念撮影を行い、たけのこ掘りは無事終了しました。



作業終了後の記念撮影

平成16年度(社)砂防学会通常総会並びに研究発表会に参加



大久保砂防学会会長の挨拶

5月18日～20日にかけて、宮崎市にて砂防学会通常総会並びに研究発表会が開催されました。

総会後は、医師である石黒耀先生の「火山と人類」という演題の特別講演がありました。

宮崎市は台風4号の接近に伴い期間中はあいにくの雨模様でしたが、研究発表会では、日頃の研究成果の発表とそれに対する活発な意見交換がされました。

3日目の現地研修会は2コースに分かれ、降りしきる雨のなか、国や県が手がける砂防・治山事業の現場を見学させていただきました。

土砂災害防止推進の集い(全国大会)が愛媛県で開催される

6月2日に、愛媛県松山市にて、平成16年度(第22回)土砂災害防止推進の集い[全国大会]が開催されました。本県砂防ボランティア協会からは森下会長が参加されました。

大会では、有馬佳明前安曇村長ほか6団体に土砂災害防止功労者の表彰が行われました。シンポジウムでは「しまなみ・まちなみ・つながり活かす身近な防災」をテーマに、土砂災害防止のあり方について意見交換が行なわれました。また、地元の双海町立下灘小学校6年生の皆さんが、地域のお年寄りからの聞き取り調査の結果から、土砂災害を防ぐために自分たちに出来ることを発表し、地域のつながりや世代のつながりについて学ぶ機会となりました。

翌日3日には、現地研修会が行なわれ水と緑の砂防モデル事業により実施された、『白猪谷堰堤』等の視察が行なわれました。



地元の双海町立下灘小学校の皆さんによる発表

東海4県土砂災害防止法担当者会議開催される



会議の様子

6月8日に、平成16年度第1回東海地区土砂災害防止法担当者会議を静岡県庁で開催しました。当日は、東海4県の担当者に加え、国土交通省中部地方整備局がオブザーバーとして出席されました。

この会議は、土砂災害防止法に基づく区域指定に関する問題点などを担当者レベルで協議するため、平成13年から年に2回程度開催されています。

今回は、土砂災害警戒区域の範囲の設定、警戒避難基準雨量の設定状況、土砂が建築物に作用する力などについて活発な意見交換が行われました。

由比地すべり対策検討委員会を設立

6月18日に、第1回由比地すべり対策検討委員会が開催されました。

この委員会は、今年度から国の直轄地すべり対策調査(事業主体:国土交通省富士砂防事務所)に着手する、由比町由比地区(サッタ山)において、豪雨や東海地震等により大規模な地すべりが発生するおそれがあることに鑑み、地すべり機構とその対策の基本的な方針について検討するため、地すべりに関する学識経験者等(18名)で構成されます。

今回は、由比地すべりの概要、既往調査結果を基に、地すべり対策の必要性及び当面の調査・観測方針について検討しました。今後は、年度内に委員会を2回実施し、地すべり機構と地すべり対策の基本的な方針について検討する予定です。



委員長に就任した土委員長(静岡大学名誉教授)の挨拶

高知県が「静岡県における地震防災対策」調査・視察の実施

6月14~15日に、高知県の見波土木部長他13名が、地震対策の先進地である静岡県の地震防災対策に関し、特に津波対策の取組状況等についての調査と視察をされました。

高知県では、平成15年度から南海地震対策を県政の重要課題と位置付け、「公共事業による地震防災対策の当面の進め方」検討チームを設置し、事業の進め方の検討を行っているそうです。

1日目は、静岡県のこれまでの取組状況の説明と県地震防災センターの見学、2日目は、砂防・河川・港湾等の津波対策施設の視察を行いました。砂防関係施設としては、急傾斜地崩壊対策事業における津波避難地(「多比舟越第2」沼津市)・避難路(「多比上道」沼津市)の施工現場を視察し、各施設に対しての参加者の皆さんの関心は非常に高く、熱心に見学されていました。



県庁総合司令室にて静岡県の地震防災対策の説明



避難路「多比上道」の視察

第3回 富士山火山防災協議会開催～富士山ハザードマップ検討委員会が最終報告～

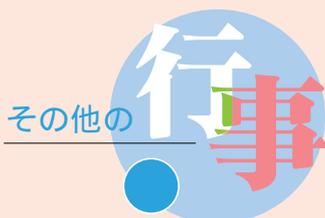


会議の様子

6月29日に、都道府県会館(東京)において「第3回富士山火山防災協議会」が開催されました。

この協議会は、平成12年10月から13年5月にかけて多発した低周波地震を契機に、富士山の火山防災に係る機関により、協力して富士山火山ハザードマップを作成し、火山防災対策の考え方を共有するため、平成13年7月に設置したものです。同時に、富士山火山防災マップを作成するにあたり、学識者及び行政機関で構成する「富士山ハザードマップ検討委員会」(委員長:荒牧重雄東大名誉教授)を設置し、検討してきました。今回の協議会では、検討委員会の最終報告が行われました。

今後、静岡県では、富士山ハザードマップ検討委員会最終報告書と整合を図り、年度内を目途に、地域防災計画に富士山の火山防災対策を盛り込んでいく予定です。なお、今回の協議会では、国・地方自治体との連携による広域防災対策の基本的な方針を検討する「富士山広域防災検討委員会」と、防災対策と観光など富士山との共生のあり方について検討する「富士山共生ワーキンググループ」の新設も、決定されました。



平成16年	4月	20日	東海4県砂防課長会議(愛知県)
		27日	全国治水砂防協会静岡県支部会計監査(静岡市内) 土砂災害防止法庁内連絡幹事会(県庁)
		28日	平成17年度 国への静岡県の提案・要望(国土交通省)
5月	11日		全国砂防主管課長会議、全国治水砂防協会参与会(東京都)
		13日	土木事務所企画砂防担当者会議(県庁)
		24日	全国地すべりがけ崩れ対策協議会総会・理事会(東京都)
6月	8日		全国地すべりがけ崩れ対策協議会専門部会(東京都)
		16日	全国地すべりがけ崩れ対策協議会拡大施策検討委員会(東京都)

石碑

をたずねて

これまで、約5年間にわたり「わがまちの砂防」をご愛読いただき、誠にありがとうございました。

前号で、県内の市町村を一巡しましたので、ここで、しばし休みし、治水砂防に関わった偉人や災害復旧などの石碑を訪ね歩くコーナーを新たに設けました。お楽しみにして下さい。

さて、第1回は福田町の砂防功労者伊藤五郎の像です。機会がありましたら、どうぞお立ち寄り下さい。



この像は太田川河口前川橋のたもとにあり、東西に広がる松並木の見事な砂防堤と、広々とした美しい畑地をみつめるように右手をかざした、高さ4.5mの像です。

- 名称 …………… 砂防功労者 伊藤五郎の像
- 所在地 …………… 磐田郡福田町豊浜
- 建立年 …………… 昭和7年
- 建立者 …………… 中沢保三
- 河川・溪流・区域名 …… 太田川河口
- 災害の発生日 …………… 大正初期まで（詳細は不明）
- 災害の場所 …………… 磐田郡福田町豊浜
- 災害の概要 …………… 台風、高潮があるたびに農地、家屋に水害をもたらした。



【交通機関】

東名磐田I.C.と袋井I.C.より車で30分
磐田駅より車で約15分、
遠州鉄道バスで磐田駅より約30分
福田町営のエコバス豊浜南部線で役場
から約10分



現在の福田漁港周辺

伊藤五郎は安政5年(1858)に、福田町豊浜内野兼吉の3男として生まれ、17歳の時、伊東幸次の養子となった。五郎は、生来働き者で農、漁のほかには卸売り、林業等様々な事業を手掛けた。次に、海岸近くの荒地の開墾整備を始め、人々の嘲笑をよそに黙々と自分の信念を貫き、砂防堤を造る位置に藁やカヤ、竹等を差込み、風によって飛ぶ砂を自然の力で集め徐々に高くして行く方法で(サシキリ、ヤナサシと言われた)現在に見られる立派な砂防堤を完成させた。その後、内側の荒地を開墾整備し畑とし村人に平等に割当てたのである。大正11年64歳で急逝、多くの人に惜しまれた。

伊藤氏の尽力により造られた砂防堤により、長年にわたり水害により被害を受けていた豊浜地域を救うことができ、この偉業を讃えるために昭和7年に記念像を建立した。五郎の像の左手には、忙しい仕事の余暇の楽しみとした投網を持っている。

土木事務所企画担当者紹介



新年度がスタートし3ヶ月が経ちました。やっと皆様にも顔を覚えていただけた頃とは思いますが...。市町村の皆さんからの砂防事業等に関するご質問や土砂災害情報等を我々にお寄せ下さい。

土木事務所	氏名	TEL	抱負
下田	せきの 関野 勇治	(0558) 24-2112	海あり山あり危険箇所ありの下田土木。土砂法の区域指定ががんばります。
熱海	さいとう 齋藤 昌昭	(0557) 82-9171	効果的、効率的な事業執行に努め、土砂災害の危険箇所が少しでも減らせればと思います。
沼津	えんどう 遠藤 佳之	(055) 920-2211	土砂災害警戒区域等の指定に向け、出来るだけ多くの地域に説明に入りたいと思います。
	はると 春田 明利		多くの経験を重ね、見識を深めたいと思います。
富士	ももせ 百瀬 尚至	(0545) 65-2794	日本一の富士山とそこに住む人々を、土砂災害から守るためにがんばります。
	まつなが 松永 章宏		管内市町村と協力し、土砂災害を未然に防げるように頑張ります。



土木事務所	氏名	TEL	抱負
静岡	いしい 石井 哲	(054) 286-9321	補助事業とグリーンベルトの担当です。微力ですがお役に立てれば幸いです。
	すずき 鈴木 輝昭	(054) 286-9322	土砂災害の被害を軽減して安全で安心な社会づくりに役立ちたいです。
島田	きたしま 北島 修	(0547) 37-5272	地域住民を土砂災害から守り、安心して暮らせるような町づくりをしたいです。
御前崎	かわはら 河原 有希	(0548) 63-3214	1市3町を担当しています。土砂災害を未然に防ぐよう関係機関と連携を図っていききたいと思います。
袋井	たかつか 高塚 博	(0538) 42-3216	管内は危険箇所が多いので、各市町村さんと連携よくしていきたいです。
天竜	すずき 鈴木 章郎	(0539) 26-2496	北遠地域で要望の多い砂防事業を今後も整備推進していきます。
浜松	とみた 富田 淳志	(053) 458-7266	初めて砂防担当者となり、不慣れな点もありますが、頑張っていくしたいと思います。

募集・案内コーナー

「2006砂防カレンダー」全国写真コンテスト

現場周辺の山・谷・川の写真募集

応募資格 / なし

応募締切 / 夏の砂防 平成16年9月30日
秋の砂防 平成16年12月26日
冬の砂防 平成17年3月31日
春の砂防 平成17年6月30日

サイズ / 四切りカラー写真(四切りワイドを含む)

入選賞金 / 優秀賞 四季×3点(賞金各8万円)
佳作賞 若干点(賞金3万円)

応募・問い合わせ先

〒105-0004 東京都港区新橋6-13-1
NPO法人砂防広報センター 砂防カレンダー係
TEL 03-3459-1591



富士砂防事務所からのご案内

夏休み富士山大沢扇状地自然観察会

富士山大沢崩れから流出した大量の土砂が堆積している大沢扇状地や樹林帯の中を歩きながら、砂防施設や富士山の自然について学んでいただくことを目的として開催しています。

実施日 / 平成16年8月4日(水)

対象 / 小学生～一般(小学生は父兄同伴)

参加費 / 500円(交通費及び保険料)

申込方法 / 往復八ガキがEメールにて、住所・電話番号・氏名・年齢を記入して、7月26日月までに富士砂防事務所へお送り下さい。

申込・問合せ先

国土交通省富士砂防事務所
〒418-0004 富士宮市三園平1100
TEL 0544-27-5221
Eメール info@fujisabo.go.jp



平成16年 7-9月
砂防関係の
主な行事

- 8月 上旬 静岡県支部促進要望(国土交通省、本県選出国会議員)
- 20日 県民の日(沼津土木) 深沢川砂防環境整備見学会(大仁町)
- 26~28日 市町村長等砂防事業視察(新潟県)
- 9月 1日 防災の日
- 1~3日 日本地すべり学会研究発表会及び現地見学会(秋田県)

【表紙写真】



一瞬の晴れ間に 御殿庭
花崎 智さん(沼津市)

砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記まで問合せ下さい。

編集後記

「砂防フェスティバルしずおか」が今年も開催されました。当支部では、土砂災害防止啓発グッズなどを作成・配布し、少しでも土砂災害防止啓発に役立てばと協力しています。

県支部では、市町村合併に伴う会費の減少により、事業の見直し、会費の改正等の検討を進めています。県内の砂防事業の発展のために、今後とも皆様の協力を得て事業が継続できますよう頑張っていますので、よろしくご指導をお願いします。

砂防だよりが砂防室ホームページでも見られるようになりました。砂防室HPアドレス：<http://doboku.pref.shizuoka.jp/sabou/index.html>



第146号 発行日：平成16年7月15日

編集・発行：全国治水砂防協会 静岡県支部

〒420-8601 静岡市追手町9番6号 静岡県土木部河川砂防総室砂防室内
TEL(054)221-3042 FAX(054)221-3564 E-mail: sabo@pref.shizuoka.lg.jp



古紙配合率100%再生紙を使用しています。